

放置自転車の撤去・管理作業の工数を削減し、撤去自転車の返還率向上などにも取り組むことで、放置自転車が少ない市民にとって安全なまちを実現したい

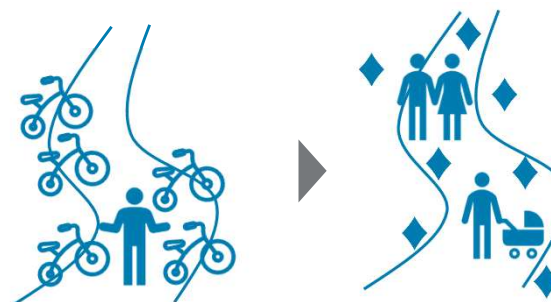
テーマ3. 放置自転車撤去業務の効率化

現状

- 現行の撤去作業は、中心市街地と郊外をパトロールし、放置自転車を発見すると即時または一定期間をあけてトラックで撤去する方法である（年間約2,000台）。撤去後は周知用紙を現場に掲示する。作業範囲が広く移動に時間を要する上、1台当たりの撤去経費は約25,000円と高額である
- 自転車の撤去要望や行方不明の問合せ電話が多く発生しているが、対応に時間が取られている
- 街中の放置自転車に加え、駐輪場内の長期留置自転車が多く発生し、収容台数を阻害する要因となっている
- 撤去自転車の返還率は毎年38%と低迷しており、残りはリサイクルかスクラップしている

目指す姿

- 撤去業務を省力化することで、撤去自転車の返還率上昇や駐輪場の収容台数回復など他の取組の検討や実施に注力できる
- 放置自転車が少ない市民にとって安全なまち



解決したい課題

アナログ作業が多い放置自転車の撤去業務（パトロール、要望対応、問合せ対応、撤去周知作業等）をデジタル技術を活用して効率化する



現行（目視パトロールや手書台帳）



デジタル化のイメージ（LINE通報やタブレットでの情報管理）



【関連する取組】[熊本市の放置自転車対策](#)